

マサバ



生態的特徴等

【生態】

日本周辺に広く分布し、季節により大きく回遊する。太平洋側では春から夏にかけて伊豆諸島～常磐沖を北上し、秋に道東～三陸沿岸域を南下する。冬には2歳以下の未成魚は越冬場である常磐～房総海域で過ごし、3歳以上の成魚は産卵場である伊豆諸島周辺海域へと南下し3～6月に産卵する。稚魚以降は魚類、甲殻類を主な餌とする。寿命は7～8歳。平成25年生まれの加入により資源量が大きく増加したが、密度効果によって成長速度の低下がみられている（図1）。

【漁法と盛期】

茨城県では主にまき網によって近縁種のゴマサバとともに漁獲されるが、漁獲量はマサバの方が多い。魚群の回遊に合わせて漁船も移動し、本県沖には晩秋から春に漁場が形成される。

【利用】

青魚の代表であるマサバは、EPA・DHAなどを豊富に含む。特に秋から冬は産卵のために栄養を蓄え、脂がたっぷりのって美味。鮮魚のほか、缶詰、塩干品原料として利用され、近年ではアジア・アフリカ等への輸出も盛んである。プライドフィッシュ（冬）に選定されている。

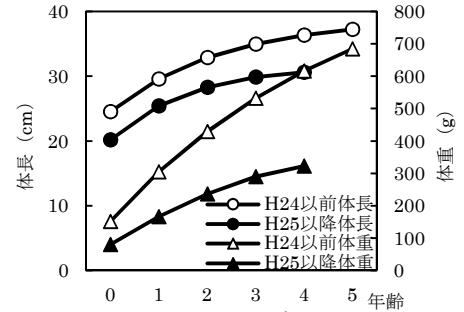


図1 マサバの成長

(H24以前に加入した年級とH25以降に加入した年級を別に示した)

H25年級群の加入により、資源は増加傾向

(漁獲量) S53年には100万トンを超える漁獲があったが、その後急速に減少し、H3年には数千トンとなった。その後、H15年に策定された資源回復計画により少しずつ安定し、近年では20万トン程度の漁獲となっている（図2）。（※統計上はマサバ・ゴマサバを合わせたさば類として計上される。）

(加入量) 数年おきに発生する卓越年級群により、資源は増減を繰り返している。特にH25年級群は約30年ぶりの大卓越とされ、H26年以降の漁獲量が増加している。

(水準と動向) 資源水準・動向は1～5月のまき網CPUE（トン/網、図3）で判断した。H29年の資源水準は「高位」、動向は過去5カ年の傾向から「増加」とした。

水準



動向

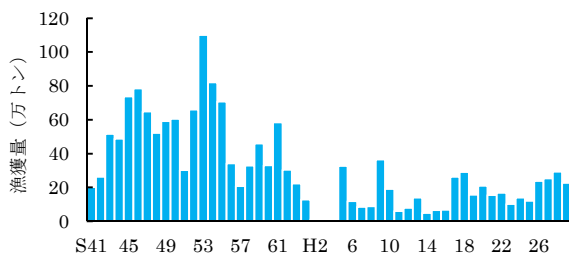


図2 さば類漁獲量^{※1}の推移

※1 千葉県から青森県沖で操業するまき網の漁獲量で、北部太平洋まき網漁業協同組合連合会の集計値

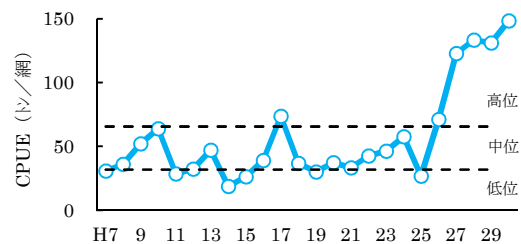


図3 さば類のCPUE^{※2}（まき網）

※2 まき網船間無線通信（QRY）資料から、1～5月のさば類漁獲量を同期間の投網回数で割って算出。

【全国の漁獲動向】

- ・茨城県が漁獲量全国1位。2位は長崎県、3位は静岡県。（H29農統）